［集めよ！ジュニア会員！！］

⑥「先生，質問です!」が目指すこと

欅　惇志 ｜ (株) デンソーアイティーラボラトリ

「先生，質問です!」とは

本誌企画の１つである「先生, 質問です！」は, ジュニア会員・学生会員を中心とした若手の皆様からの質問に対して専門家の方からご回答いただく企画です．大変光栄なことに多くの方から好評をいただいています．本稿では，「先生，質問です！」立ち上げの経緯や会誌掲載までの流れ，SNS を通じた質問受付・情報発信，情報処理学会第 81 回全国大会にて開催された公開「先生，質問です！」などについてお話させていただきます．当企画の質問・回答はオンライン公開しておりますので，興味を持たれた方はぜひこちら[☆1]からご覧ください．

「先生，質問です!」立ち上げの経緯

本誌の多くの企画は本会会誌編集委員会にて提案されて始まりますが，「先生，質問です！」は，本会新世代企画委員会発の企画です．新世代企画委員会発の主要な企画の１つとして IPSJ-ONE があり，その他ジュニア会員や学生会員に目を向けた取り組みを続けています（本会前会長西尾先生が執筆された本特集記事「ジュニア会員から始まる学会活動の新たなステージ」でも議論されている通り，本会は現在若年層の教育に注力しているという経緯があります）．IPSJ-ONE に続く学生向けの企画を！というお題で委員会にて議論を重ねた末に，本特集の「IPSJ-ONE がジュニア会員を惹きつけるわけ」を執筆された五十嵐悠紀先生が提案されたのが，学生からの質問に対して専門家に回答してもらおうという企画でした．その背景として，小・中・高校生からするとどのようなことを学ぶのかイメージしづらい情報学・コンピュータ科学について知ってもらいたいという気持ちや，キャリアで悩む大学生・大学院生・若手研究者の相談に乗りたいという動機がありました．このような経緯から，現在は五十嵐先生と私が中心になって，いろいろな方を巻き込みながら本企画を担当しています（本稿で登場するのはご協力いただいている方々のごく一部です！）．

当初は，オンラインフォーラムなどさまざまな形態での運用を検討し，いろいろな制約や現実的な対応を議論した結果，まずはオンラインではなく，会誌に掲載させていただけることになりました．これにより，ジュニア会員を含めてより多くの方の目に触れる機会が得られ，新世代企画委員一同感謝しております．

ちなみに，分かりやすい企画名ですねと仰っていただくことがあるのですが，企画立ち上げ当時に学生さんから「先生，質問です！」ととても元気よく話しかけられて，「これは多忙な先生方もついつい答えてしまうのではないか」と思い，この企画名に決めました．実際，本企画は大変ご多忙な先生方からも回答をいただけており，（今後依頼させていただく先生方も含めて）心よりお礼申し上げます．

会誌掲載までの流れ

本章では，「先生，質問です！」が会誌に掲載されるまでの流れについてご紹介いたします．以降，1．質問の募集と採用，2．回答者の推薦と依頼，3．回答の編集と著者校正，4．会誌の発行と

☆1　https://www.ipsj.or.jp/magazine/sensei-q.html

Web 掲載について述べます．

1. 質問の募集と採用

まずは，学生や若手研究者からの質問募集です．Web フォーム，メール，SNS（Twitter）で募集しています．これまで掲載された質問の中で最も投稿件数が多いのは Web フォームで，全体の 75% を占めています（表 -1 参照）．意外と（?）SNS（Twitter）からの投稿が少ないことからも，匿名の方が質問しやすい方が一定数いらっしゃるのではないかと考えております．そのような，直接先生方に質問しにくい方にとって質問しやすい機会を提供できているのであれば大変幸いであり，この企画に意義を感じます．

表 -2 に質問者の区分を示します．学年が上がるほど質問が多くなる傾向があり，会誌の読者層からすると妥当な比率だと思われます．今後はより小学生や中学生からの素朴な（ゆえに回答が難しい）質問や，社会人の方からの具体的な（ときにシリアスな）質問の投稿もお待ちしております．前述の URL 先の質問フォームでの質問投稿，もしくは，Twitter のハッシュタグ「#IPSJ 先生質問です」でツイートいただければ採用を検討させていただきます．

質問が届けば，類似した質問を集約し，より多くの人に興味を持ってもらえそうな質問を採用させていただいています．せっかく投稿いただいてもまだ紹介できていない質問も多数あり，申し訳ございません．また，とても興味深く，取り上げる意義のある質問であっても，新世代企画委員・会誌編集委員にて議論を行い，掲載することで回答者の方が不利益を被ったりご迷惑をおかけする可能性があると判断された場合には，質問の採用を差し控えることがございます．実は回答までいただいたものの議論を招くことが懸念されてお蔵入りになっている質問もあり，いつか状況が整えばまた世に出せればと思っているものもあります．

■表 -1　質問の投稿方法内訳

投稿方法	人数（割合）
フォーム	12 (0.75)
メール	1 (0.06)
SNS (Twitter)	2 (0.13)
モニタコメント	1 (0.06)

■表 -2　質問者の区分

質問者の区分	人数（割合）
小学生	1 (0.06)
中学生	1 (0.06)
高校生	2 (0.13)
高専生	3 (0.19)
大学生	4 (0.25)
大学院生	4 (0.25)
社会人	1 (0.06)

2. 回答者の推薦と依頼

採用する質問が決まれば，新世代企画委員や会誌編集委員のみんなで回答者を推薦するフェーズです．各自，「あの方はこの質問にどう答えてくれるだろうか」「こういう疑問はぜひあの先生にお伺いしてみたい」などという思いを持って推薦しています．いつも幅広い分野の方々を推薦くださる新世代企画委員会委員長の川原先生からも「推薦するのは中の人の特権であり喜び」というコメントをいただいています．

次に，なるべく回答者の属性が偏らず，（仮に個々の回答がいずれかの意見に基づいていたとしても）回答全体として中立（公平）かつ多様な回答が集まるように五十嵐先生と私でアレンジしています．そしてこの作業，実はなかなか（率直に申し述べると，かなり）大変なんです．より多様な回答が想定される質問にはなるべく多くの方からの回答を依頼していますが，その一方で，回答者が偏らないようにするために毎回別の方に依頼しております．……こんな風に書くと五十嵐先生と私が苦労しながら担当しているように聞こえるかもしれませんが，実際は「この質問は○○先生にも△△先生にもお聞きしてみたい！　でもこっちの質問にも答えてほしい……．あぁ悩ましい！！」といったやりとりをしながら，とても楽しく取り組ませていただいています．

また，常に自転車操業となっており，回答者の皆様には短期間での執筆依頼となることが多く，ご迷惑をおかけしてしまっております．本企画はすでに大御所の先生方から回答いただいているために断りづらい（?）という噂も聞いており，今後依頼させていただく先生方には何卒ご協力賜れば幸いに存じま

す．表 -3 に示す回答者の区分の通り，大学所属の回答者が多くなっておりますが，質問の性格によっては今後も国立研究所職員や企業研究者・エンジニアの方からのご回答を依頼させていただくこともあるかと存じますので，よろしくお願いいたします．

また，新世代企画委員や会誌編集委員には多様な背景の方がいらっしゃってバラエティに富んだ方々を推薦していただいていますが，まだアプローチできていない領域があるかもしれません．このような懸念もあり，より多様な回答が想定される質問に対しては，会誌にてオープンに回答を募るという試みも始めております．こういった取り組みは，本企画が持続可能な仕組みを検討していく上でも有用であると考えています．

3. 回答の編集と著者校正

依頼をお引き受けいただき，ご回答いただければ，誤字脱字の確認などの軽微な編集作業や，議論を招く表現がないかの確認をさせていただきます．その後本会事務局にて作成いただいた原稿を回答者の方に校正をしていただいて，無事に脱稿となります．これまでの手続きの後に印刷・出版となるため，全工程で数カ月かかることになります（同時に複数号の質問・応答を編集しているので，混乱することも多々あり）．

4. 会誌の発行と Web 掲載

本企画の趣旨はより多くの学生の皆様のお役に立ちたいということであるため，会誌への掲載のみではなく，Web 上（本会 Web ページおよび SNS）でも質問・回答を掲載しております．会誌のアンケートでもさまざまなご意見を頂戴しておりますが，SNS ではそれ以上にたくさんのフィードバックをいただき，中には光栄にも大御所の先生から貴重なメッセージをいただいたこともございます．私にとって記念すべき第 1 回の「先生，質問です！」掲載は 2018 年 8 月号であり，掲載された記事や SNS での（おおむね好意的な）反響は大変感慨深く感じました．

このように評価いただけている理由について考えてみたところ，現在活躍されている研究者の皆様も学生のころに同じような疑問を抱いていたり，さらにその疑問の解決が研究の面白さを知ったり研究者を目指したきっかけになったという事情があるのかもしれません．また，素朴な質問こそ本質的であることが多く，今の時代背景に照らし合わせて本質的な点を再考することで次の時代への新たなチャレンジに繋がるのではないかと思っています（すべて川原先生の受け売り）．

■表 -3　回答者の所属

回答者の所属の区分	人数（割合）
大学	26 (0.70)
国立研究所	2 (0.05)
企業	9 (0.24)

公開「先生，質問です!」裏話

情報処理学会全国大会では毎年会誌編集委員会の企画が催されており，今年（2019 年）3 月の情報処理学会第 81 回全国大会では，「先生，質問です！」の公開イベントが開催されました（当日の様子は図 -1，図 -2 に示す通りです）．普段の会誌企画では多少なりとも質問への回答を考える時間がありますが，公開イベントではパネリストの皆様にその場で全方位からの質問に回答していただくため，非常に高いアドリブ力を求められる企画でした．パネリストとして会誌編集委員会編集長の稲見先生，副編

■図 -1　オンライン配信の裏側（会誌編集委員の畑田さんのおかげで実現しました，心より感謝！）

集長の加藤先生と中田様をはじめとした会誌編集委員，各ワーキンググループの代表者の皆様が登壇され，司会は私が担当させていただきました．

こちらのイベントの質問は通常の会誌の募集方法以外にも，全国大会現地にて紙面での質問募集や，稲見先生が原中央中学校でされた出前授業での質問募集も行いました．その結果，想定より遥かに多くの質問を投稿いただき，当日の質問をパネリストの皆様に事前に共有する余裕がありませんでした．それどころか，質問の書き起こしが完了したのはイベント開始１時間前で（会誌編集委員の太田様の大変なご尽力に深謝），開始直前の１時間は会場設営と平行して質問のピックアップを行い，無事にイベントが始められたのが信じられないくらいでした．事前打合せなしにもかかわらずパネリストの皆様には的確なご回答をいただき，会場の参加者や今年から始まった「中高生ポスターセッション」の発表者からも議論が弾む質問を投げかけていただき，大盛り上がりのうちに無事に終えることができました．イベント終了後には，学生の方からシニアの方まで幅広い年代の参加者の皆様から，面白かった・楽しかったとの労いの言葉を多数いただけて，苦労が報われたと感じました．来年の全国大会でも公開「先生，質問です！」を開催予定ですので，ぜひ皆様ご参加ください．当日のパネリストの皆様の素晴らしいご回答と焦る私の様子はこちら☆2 にて公開されております．また，会誌の人気連載漫画「IT 日和」のイラストを担当されている山本ユウカ先生がまとめてくださった報告もこちら☆3 にて公開されています．それぞれ魅力的なコンテンツですので，ぜひともご覧ください！

■図-2　パネリストの皆様の様子

☆2　https://www.youtube.com/watch?v=LewxmCu7Zzo

今後の展望

当初本稿の依頼をいただいた際のタイトルは「「先生，質問です！」コーナーのもたらした効果（仮）」でした．現時点ではまだまだ道半ばであるため，「「先生，質問です！」が目指すこと」とさせていただきました．当初からの目的意識についてはすでに申し述べたので，最後に，これから目指すことについて述べて本稿を締めさせていただきます．

マンパワーの制約で現在は限られた質問のみを採用させていただいておりますが，投稿いただいた質問はいずれも質問者の方にとってはとても重要な内容ですので，いずれはすべての質問をピックアップできる仕組みを整えたいと思っています．また，「4. 会誌の発行と Web 掲載」にて言及した SNS での議論の中には大変有用なコメントも多々あり，掲載済みの質問・回答に反映させたいという気持ちもあります．これらを踏まえると，ジュニア会員を含む幅広い層の学生の皆様と専門家の皆様がインタラクティブに交流ができる環境を整備することが最終的なゴールだと思っています．いろんな制約があるためなかなか大掛かりな仕組み作りは難しいところもあるかと思いますが，持続可能なコミュニティ形成に向けて今後も邁進していきたいと思います．もし五十嵐先生と私と一緒に本企画を盛り上げたいという方がいらっしゃれば大歓迎です！

（2019 年 6 月 3 日受付）

☆3　https://www.ipsj.or.jp/magazine/itmanga/bangai.html

欅　惇志（正会員）akeyaki@mail.d-itlab.co.jp
（株）デンソーアイティーラボラトリ アソシエイトリサーチャー．博士（工学）．2014 年奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了．情報検索，自然言語処理，データベースシステムに関する研究に従事．